

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
帝王賞	2018/6/27	JpnI	大井	2000m	ミドルペース	良	展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	グランユニヴェール	牡5	57	高松	ネオユニヴァース	サンデー系	シンボリクリスエス	ロベルト系	D	C	D	D	D	D		
2	2	ケイティブレイブ	牡5	57	福永	アドマイヤマックス	サンデー系	サクラローレル	ナスルーラ系	A	B	B	C	B	B	△2	
	3	トーセンスパンキー	牡6	57	遠藤	スペシャルウィーク	サンデー系	トニービン	ナスルーラ系	D	D	D	D	D	D		
3	4	ゴールドドリーム	牡5	57	ルメール	ゴールドアリュール	サンデー系	フレンチデピュティ	ノーザン系	A	A	C	B	B	B	△3	
	5	テイエムジンソク	牡6	57	古川	クロフネ	ノーザン系	フォーティナイナー	ミスプロ系	A	C	B	B	B	B	◎	
4	6	リッカルド	セ7	57	矢野	フサイチリシャール	ノーザン系	オペラハウス	ノーザン系	C	A	B	C	B	B	×1	
	7	アウォーディー	牡8	57	武豊	Jungle Pocket	ナスルーラ系	Sunday Silence	サンデー系	B	A	B	B	B	B	△1	
5	8	ヒガシウィルウィン	牡4	57	森	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	A	B	B	B	C		
	9	アポロケンタッキー	牡6	57	内田	Langfuhr	ノーザン系	Gone West	ミスプロ系	A	B	B	B	B	B	▲	
6	10	サウンドトゥルー	セ8	57	大野	フレンチデピュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	A	C	A	B	B	B	○	
	11	ネオヴェルモット	牝4	57	千田	タニノギムレット	ロベルト系	フジキセキ	ミスプロ系	D	D	D	D	D	D		
7	12	オールブラッシュ	牡6	57	田辺	ウォーエンブレム	ミスプロ系	Crafty Prospector	ミスプロ系	D	A	C	C	C	C		
	13	サブノクロヒョウ	牡5	57	笹川	ローズインメイ	ヘイロー系	カコイシーズ	アリダー系	D	B	B	C	C	C		
8	14	カツゲキキトキト	牡5	57	大畑	スパイクユール	サンデー系	キングカメハメハ	ミスプロ系	D	B	C	C	C	C		
	15	アサクサポイント	セ10	57	加藤聡	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	B	C	D	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
オール テイエ ケイテ サブノ アポロ リッカ カツゲ アウォ ヒガシ サウン ゴール アサク トーセ グラン ネオヴ ミドルペース	<p>今年の帝王賞のカギを握るのは展開になりそう。まずはザッと隊列の予想図から。逃げるのは外枠に入ったオールブラッシュ。スタートがそこまで速くないので、内のケイティブレイブ、テイエムジンソクがハナに立つ可能性はあるが、外枠に入り、1コーナーまでの距離が十分にあるので、田辺騎手の性格を考えても行き切る形を取りそう。続くのはケイティブレイブ、テイエムジンソク。ケイティブレイブは川崎記念、ダイオライト記念と逃げ切り勝ちを収めているが、逃げ馬不在の中での逃げ。内枠を引いたので本来であれば、無理をしてでも行き切ったほうがいいが、鞍上が福永騎手なので外から行く気を見せる馬がいれば、好位の内に収まりそう。ちょうどチャンピオンズカップと似たような位置取りになるだろう。(中略) どう考えても大井2000mらしいタフな持久力戦が展開されそう。どの馬から入るか非常に悩んだが、シンプルに1番強いと思う馬から入りたい。</p> <p>本命はテイエムジンソクの先行押し切りに期待。昨年のチャンピオンズカップでは正攻法の競馬で挑み、G1・11勝馬のコパノリッキーを競い落として2着。最後はゴールドドリームの決め手に屈したものの、勝負に勝ってレースに負けたようなもので、実質的な勝ち馬は本馬といってもいいくらいだった。(以下省略)</p>	回顧 次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	グランユニヴェール		南関東のA2で苦戦している現状。JpnIでは荷が重い。		
2	2	ケイティブレイブ	△2	一見、堅実駆けに見えるが、福永騎手が「好位の内」を選択すると苦しい競馬を強いられそう。昨年の帝王賞& JBCクラシックのアウオーディーではないが、無難に内目をロスなく立ち回ると伸びそうで伸びずに敗れるシーンがありそう。人気を考えても積極的に買うべきではない。		
	3	トーセンスパンキー		近走はB2で大敗続き。参加するだけだろう。		
3	4	ゴールドドリーム	△3	距離&コースへの不安がやはり残る。昨年の帝王賞は「ドバイ帰り」という言い訳がつくとはいえ、ジャパンタータービーでは勝ち馬キョウエイギアから1.2秒差の3着に敗退。やはり左回りのワンターンのコースでこそで、大井2000mは合っていないのではないか。		
	5	ティエムジンソク	◎	フェブラリーステークスは逃げ、先行勢が総崩れのレース、平安ステークスは正直、物足りないが、相手に合わせる競馬をしてしまったのが敗因だろう。今回は前述の通り、前走の敗戦を生かしての積極策が濃厚。この馬の力を再度見直したい。		
4	6	リッカルド	×1	帝王賞は良馬場なら2分3〜4倍台の決着になるはずで、持ち時計的に壁にぶつかる可能性が高い。ただJRA勢はほとんど不安を抱えており、JRA勢の多くが自滅してしまえば、自ずと着順を上げてくるかもしれない。基本的には厳しい線で考えたい。		
	7	アウオーディー	△1	全盛期の勢いこそないものの、昨秋〜今年の川崎記念までの走りを見る限り、ケイティブレイブ、アポロケンタッキー、サウンドトゥルーとは流れひとつで着順が入れ替わるはず。最近の大井2000mのG1では内枠で苦しい競馬を強いられており、やや消化不良でもあった。今回の枠はいい。		
5	8	ヒガシウィルウィン		前走大井記念では地元のリッカルド、サブノクロヒョウに完敗。どうも3歳時から成長が感じられず、現状はJpnIだと荷が重いはず。		
	9	アポロケンタッキー	▲	今回は本馬より外に速い馬がいなくて（特に隣のサウンドトゥルーが控えるのが大きい）、自分の取りたいポジションを取れそう。ハイペースでも早め早めに動ければ、今回は上位争いに加わってもいいだろう。		
6	10	サウンドトゥルー	○	展開重視で考えるならゴールドドリーム、サウンドトゥルーに向くはずで、コースにそもそもの不安があるゴールドドリームよりは本馬の方が堅実駆け。大井2000mでは【2.2.2.1】と確実に追い込んでくる馬。馬券圏外に敗れた1回も4着で、馬券圏内に入る確率だけなら本馬が最も高いのではないかな。		
	11	ネオヴェルモット		JRA未勝利馬で南関東に転入後は大敗続き。ダート適性がないのでは。		
7	12	オールブラッシュ		かしわ記念では穴として期待したが、逃げ、先行勢が不在で絶好の狙い目だった。ガチンコ勝負になりやすい大井2000mでは17年帝王賞6着、17年JBCクラシック6着と完敗。今回はメンバーがそろっており、自分の形に持ち込んでも直線入り口では後続勢に捕まっているはず。		
	13	サブノクロヒョウ		大井2000mのJpnI (GI) は過去3回挑戦して、16年ジャパンタータービー8着、17年JBCクラシック7着、17年東京大賞典10着と歯が立たず。ここも厳しい。		
8	14	カツゲキキトキト		大井では16年黒潮盃2着、17年東京記念2着の実績。500キロを超える大型馬で、広い大井コースは合っているが、JpnIIやJpnIIIで勝ち切れておらず、JpnIでは掲示板に入るのも難しいのでは。		
	15	アサクサポイント		近走は地元でも苦戦しており、戦績が下降気味。カツゲキキトキトの帯同馬だろう。		